

望洋荘便り



第12号
平成16年
11月発行

苦言は喜んで・・・

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 漣

小言について。『広辞苑』には、「①口の中でぶつぶつ言うこと。不平を言うこと。②とがめ戒めることば。訓戒。③いざこざ、苦情、いさかい。」とあります。古典落語の中に『小言幸兵衛』のほかにも、小言を主題にした噺に『小言念仏』があります。いま失われつつある家庭内外での日常生活の一部を垣間見ることが出来るものです。この噺をしてくれたのは、平成九年須田医院主催の第四十九回「いわき寄席」出演の柳家喜多八師匠でした。やりとり一切なしの落語の噺でも珍しい独弁落語である。その噺の一部を情景を思い浮かべながら、御読み取り下さい。

長屋とおぼしき一軒から、その家のあるじの朝の念仏三昧。元来は信心から始めたのかもしれないが、今はたんなる朝の習慣。小言や周囲への口出しが「南無阿弥陀仏」に入り混じる。一貫しているは木魚の音だけ。南無阿弥陀仏ナムアマミダ・・・仏壇に蜘蛛の巣が張ってるぞ、たまには掃除をしろ、南無阿弥陀仏。お花取り替える、せめて水だけでも換える、花もちがいんだナムアマミダブツ、俺が楽しみにしていたお菓子、もう下げて生き仏が食っちゃったのか、南無阿弥陀仏・・・、というわけだが噺はまだ続く。早く学校へ行けと子供を促す。赤ん坊をからかうな、泣かせるな。おい子供、赤ん坊の菓子をとるな。赤ん坊をおとなしくさせるために折角あてがっているというのに。でもうまそうだな、半分おくれ。いよいよ赤ん坊が近づいて来た。南無阿弥陀仏ナムアマミダブツ、バアツ・・・と、ついあやしてしまった。赤ん坊考えてる、気をつける。ホラやっちゃった。熱い湯をたらして拭け。畳の目なりに拭け。飯がこげ臭い。ナニお隣？ でも教えてやれえ、ナムアマミダブツ・・・。

と、その後も念仏が、テンポよく続きます。噺の「おち」を心配したり、ある

じの話がしつこくて辟易するという方もいらっしゃるでしょう。しかし「小言念仏」のあるじのつぶやきの中には、その人なりの人生観、生活の知恵、生きていくための優しさを感じ取る事が出来るのではないのでしょうか。
この「小言念仏」を落語という虚構の世界と考えずに、苦言は自分を磨くサンドペーパーと考える事が出来たら素晴らしいことでしょうね。どうぞ「望洋荘」に携わっている職員の皆さん、周囲の方々や入居者及びその家族の小言（苦言）を聞き逃さないで適切に対応して下さい。そうする事が自分自身を向上させる事にならずつながることでしょう。

『生花教室』をはじめました。

西條よし子先生がボランティアで毎月2回の予定で来荘下さり、生花の御指導いただく事になりました。『生活の中に花がある』ただこれだけなのに人と人を繋ぎ、会話も笑いも生まれたとは、花が持つ力に感銘しました。入居者も『次はいつなの』と楽しみにしている様です。



江名中学生「体験学習」に来荘

十月十三日(水)九時〜午後三時までの六時間、江名中一年生十二名が『お年寄りとの関わり方を知り、社会の一員として自分の役割を考える』ために体験学習に来荘してくれました。五つのグループに別れ一日入居者の皆さんとお話をしたり、折り紙・風船などの遊具を使って交流を図っていました。



中学生の皆さんから感想文を頂きました。(その一部を掲載致しました。)

①とても大変だった事は、初めて動かし車椅子です。思う様に動かなかったです。楽しかった事は、おじいちゃん・おばあちゃんとふれ合った事です。江名の事を知っている人がいて話をしたら涙を流してしまった人がいました。その時はうれしかったです。

②おばあさんは、耳が遠かったもので、何回も大きな声で言うのが結構大変でした。その中でも折り紙を折ったり、一緒に歌を歌ったりしたのが楽しかったです。えっと思った事もありません。食事の時にバイナッブルが粉々だったり、おかゆだったりとか一人一人食べる物が違っていました。それは噛めない人の為にやっています、ミキサー食と言う事がわかりました。この体験を通じてチームワークが大事と言う事を教えてもらい、みんなと仲良く過ごそうと思いました。私は将来、看護師になりたいと思っています。お年寄りとの関わり方がわかったので良い体験でした。

③お年寄りはみんな話をして見ると、とても良い人だな等、気が付いた事、学んだ事もたくさんあります。この学んだ事をこれから困っている人がいたら、すぐに何があったか聞いたり、車椅子を押してあげたり、色々な事に実践して行きたいと思っています。

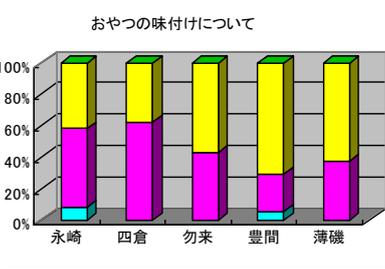
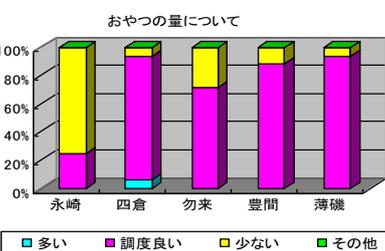
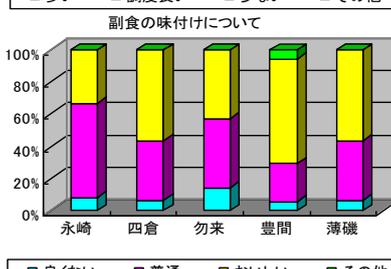
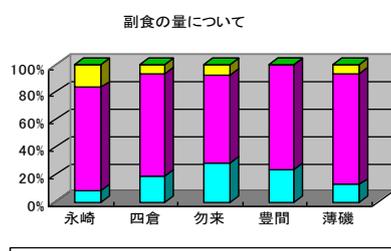
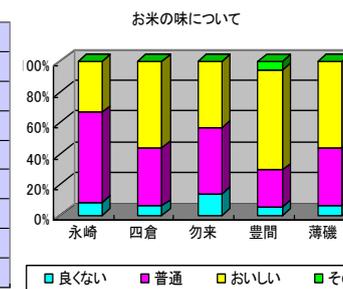
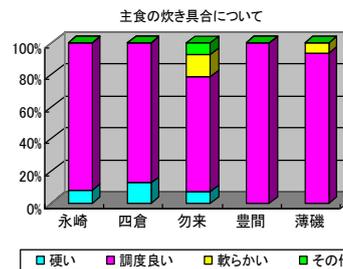
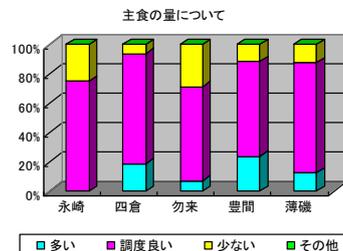
④この体験をいかに今までは、お年寄り方に少し冷たく接していた所があったのでこれからは暖かく接して行きたいと思っています。

※ 江名中学校のみなさんお疲れ様でした。そしてありがとうございます。機会があれば、また遊びに来てください。(望洋荘従業員一同より)

入居者さんの「嗜好調査」を実施しました。

アンケート実施期間
アンケート対象者人数
アンケート回答率

十月四日(月)〜十月二十日(水)
入院中を除く 七十五名
100%



【まとめ】

主食・副食も味付けや量に関しては大部分の方がほぼ満足しているように思われる。しかし、多い・少ないと感じている方については、必要場合は調節して対応していかなければならない。おやつは全体的に甘い手作りの物が好評であったが、2名程甘い物は苦手という方もいた。甘くないおやつ等も献立に組み込んでいくよう努めたい。取り入れて欲しい、回数を増やして欲しいメニューの結果や残食量も含め、今後の献立作成の資料として活用していきたい。『望洋荘 管理栄養士 為永 公子』

いわき寄席あれこれ

須田 混

笑うは楽し
二人で笑えば また楽し
子等の笑い聞くは嬉し
笑うところ 陰なし
共に笑えば身も心も軽ろし
腹から笑うべし
笑いにさそわれるべし
笑いに包まれるべし
世の中笑い繋ぐべし
笑うは楽し
心から笑えば病いも消えるべし

開院十周年記念の余興に落語家を招いた。その時の状況が今でも目に浮かびます。舞台に立ったそのときから来客者を引きつけてゆく手順に惹きつけられました。その時のパーティの賑やかさは、今までにない程の楽しさでした。二次会になって落語家曰く、いわきにも我々噺家がきてお喋りできる場があれば協力したい、とのこと。それを云う師匠の名は、五街道 雲助であります。江戸時代の『くもすけ』ならいざ知らず斯界中堅どころの雲助師匠からの話なので、それに乗ることにしました。そこ迄くれば話しは早い。

早速、準備をはじめ、会の名前も生意気にも『いわき寄席』と名付けた。初回の寄席には、入船亭 扇遊師匠が来られて、子ほめ、浮世茶、佃祭りの三席を演じてくれた。その後二ヶ月に一回寄席はひらかれた。落語独演会として平成元年から続けること9年間、もう一回で五十回になる。何事も続けることが歴史を作る。とは云うものの、会場を捜すにもいろいろなることがあった。市内にある文化センターの大ホールや和室、市民会館の会議室、小島公民館、音楽館、等々を利用しました。その中で評判の良い会場は音楽館の大ホールでした。しかしそれもつかの間、落語は音楽の分野でないので御遠慮願いたいとのこと。落語は古典芸能の音曲にて出陣子の勉強会ではと申しこんだが駄目、その理由は不明だった。いわき市の職員にこそ落語を聞かせて、世の中の義理人情はいつの世になっても変わることはないのだと言いたい。―そのうち音楽館を使わしてくれませんか―

いわき寄席を長く続けてみると、落語の好きな人は沢山おるものです。そもそもこの会を始める目的は入院と外来の患者、そしてその家族に聞かせて笑いを誘うことが出来ればと考えた。冒頭の詩にあるように、笑いのあるところ心身健全である。日本医科大学の教授もリウマチの研究にて笑いの効用を科学的に実証しています。試みにはじめてこの寄席も女房にいわせれば『パパの道楽だね』とのこと。続けて云うに、『道楽とは銭も身も使っても稼ぎにならないのですよ』と。しかし当の本人も落語を聞きながら一人倍大きい声でわらっている。自分が笑われても多くの方々に喜ばれる寄席であれば願っています。

『いわき市医師会報への寄稿文「いわき寄席その二」から』

第八十九回 いわき寄席の案内

柳亭 痴楽 師匠

独演会



ご家族、お友達お誘いの上おいで下さい
―笑う門には福来るといいます。
笑いは家族田満―

笑いは家族田満―

平成 16 年 11 月 25 日 (木)
午後6時30分開演 いわき市文化センター

本名 沢辺幸三
生年月日 昭和 26 年 11 月 30 日
出身 北海道石狩郡当別町
略歴 昭和 43 年 1 月 つづり方狂室でおなじみ 柳亭痴楽師に入門 前座名/痴太郎 昭和 47 年 5 月 ニツ目昇進 二代目小痴楽 昭和 58 年春 真打昇進 平成 8 年 5 日 目痴楽襲名

受賞 昭和 51 年度 NHK 新人落語コンクール優秀賞 昭和 54 年度 文化庁芸術祭優秀賞 平成元年度 国立演芸花形新人大賞 など、数多くの賞を受賞し、現在、若手古典落語界の注目株である。
趣味 ゴルフ、野球、相撲等スポーツ全般、ギャンブル
信条 「体は細いが人生に太い骨と筋を通す人間である」

今月の言葉その⑩ (倫理研究所編標語集から)

逆境こそ無限の跳躍台

世の成功者で逆境経験がなく、これを飛躍の糧となさなかつた者はいない。失敗や挫折にこそ飛躍のチャンスが隠れている。だから、へこたれるまい。嘆くまい。



看護師 作山 八重子

この施設に来て半年が過ぎました。以前は病院でばかり働いていた為戸惑いが多く、馴染む事が出来るのか不安でしたが、入居者の方やスタッフとの触れ合いの中で、仕事の楽しさが出て来ました。今までの病院での経験を生かし、入居者の方々、御家族が安心して御利用していただける様、努力して行こうと考えております。宜しくお願い致します。



ケアマネジャー 赤間 千枝

望洋荘に勤務して三ヶ月が経ちました。『介護』という仕事の奥深さに魅力を実感しています。利用者の皆様の生活を支えることが介護の基本だと思います。生活を支援できる職員の一人として、思いやりと笑顔を大切に、利用者の皆様には、いろいろと迷惑を掛けることがあります。一日も早く、仕事をきちんとこなせるように努力したいと思えます。よろしくお願い致します。



庶務 鈴木 加代子

早いもので、望洋荘で働くようになって、一年が経ちます。福祉施設での仕事は初めてなので、最初は不安でしたが、なんとか慣れて来たようです。入所者の方たちとも、いくらか話が出来る様になりました。でも、まだまだ不慣れな事や知らない事が、多くあるようです。焦らず一歩一歩進んで行こうと、自分に言い聞かせているこの頃です。

「ご家族のみなさまへ」

穏やかな陽気から肌寒い季節へと変わりつつあります。これからは風邪、インフルエンザの流行など、入居者さまの身体への負担も大きくなります。これらの負担を軽減する為に、次の点のご協力をお願い致します。

1. **インフルエンザワクチン接種の促進。**インフルエンザワクチン接種については、ご本人又はご家族の承諾が必要です。別途、承諾書を同封いたしますので御理解の上、署名いただき返信下さいませ。様、お願い致します。
2. **感染防止の為、風邪・インフルエンザ等に感染している方の面会はお控えください。**
3. **冬服への衣替え（衣類等をお持ちになる際は必ず、衣類等にお名前を御記入ください）**

介護保険一口メモ ⑫

最近、介護保険の改正が新聞を初めマスコミ等で報道されております。これらの事を今後、ご紹介して行きます。

身体障害・知的障害・精神障害の一本化

現在の身体障害・知的障害・精神障害と3つに分かれているサービス提供を一本化し、被保険者を40歳以上から20歳以上程度に拡大し、障害者を含め年齢や障害・疾病の種類にかかわらず、介護サービスを受けられるようにすることが検討されています。

施設入所者から居住費用や食費を徴収

現在、望洋荘に入所されている方から居住費（お部屋代）は、頂いておりません。食費については、一日につき二千二百二十円の費用が掛かっておりますが、この内個人負担は五百円から七百八十円であり、残りは介護保険から支払われています。

これらの費用について、施設に入所されている人と在宅（全額個人負担）でサービスを受けている人との格差が大きく、今後施設に入所されている人からこれらの費用を徴収することが検討されています。

編集後記

『望洋荘』便り
平成十六年十一月一日発行
発行所 いわき市

平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘
電話 (0246) 55-7373
FAX (0246) 55-7255